

2024	日	本
産	第59回	業
広	告	賞

参加要項





## 第59回 日本産業広告賞のご案内

日本産業広告賞は日刊工業新聞社が産業広告の健全な発展と質的向上を図る目的から、1966年に制定以来毎年実施しているものです。

59回目に当たります今回の日本産業広告賞も本賞制定の目的達成に向けて更に前進するため、新聞部門、雑誌部門、情報誌部門の参加作品を広く募ることにいたしました。

時代のスピードに対応しつつも、時として厳しい経済環境に直面している産業界で、企業理念の発露として、またマーケティング活動の一環として、産業広告がその役割を十分に発揮する必要性が高まっております。

奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

# 第59回 日本産業広告賞

## 《新聞部門》

〔日刊工業新聞〕

日刊工業新聞広告大賞

本社賞(楯)

- 第1部—————
- 第1席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金30万円
  - 第2席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金20万円
  - 第3席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金10万円
  - 佳作(3点) 本社賞/賞状・賞金3万円、産業団体賞/トロフィー
- 第2部—————
- 第1席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金25万円
  - 第2席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金15万円
  - 第3席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金 8万円
  - 佳作(3点) 本社賞/賞状・賞金3万円、産業団体賞/トロフィー
- シリーズ広告賞—————
- 第1席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金30万円
  - 第2席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金20万円
  - 第3席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金10万円
  - 佳作(3点) 本社賞/賞状・賞金3万円、産業団体賞/トロフィー
  - ※特別賞に該当する場合(若干点)本社賞/賞状・記念品

## 《雑誌部門》

第1席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金20万円

第2席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金15万円

第3席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金10万円

佳作(3点) 本社賞/賞状・賞金3万円、産業団体賞/トロフィー

奨励賞(若干点) 本社賞/賞状・記念品

※特別賞に該当する場合(若干点) 本社賞/賞状・記念品

## 《情報誌部門》

第1席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金20万円

第2席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金15万円

第3席(1点) 本社賞/賞状・トロフィー・賞金10万円

佳作(2点) 本社賞/賞状・賞金3万円、産業団体賞/トロフィー

奨励賞(若干点) 本社賞/賞状・記念品

※特別賞に該当する場合(若干点) 本社賞/賞状・記念品

# 新聞部門参加規定

■**応募要領**—————ひろく産業界を対象とした広告で新聞部門は日刊工業新聞(全国版)への掲載をもって参加資格といたします。  
なお応募点数についても制限はありません。

■**審査対象**—————〔日刊工業新聞〕  
《日刊工業新聞広告大賞》新聞部門の第1部、第2部、シリーズ  
広告賞の第1席入席作品を対象とする。  
《第1部》スペース15段以上を対象とする。  
《第2部》スペース2.5段以上15段未満を対象とする。  
《シリーズ広告賞》スペース制限なしで、3点以上を対象とする。

■**掲載期間**—————2023年9月18日(月)～2024年9月20日(金)

■**入賞発表**—————2024年11月上旬の日刊工業新聞紙上にて発表。

■**注意事項**—————●参加作品の掲載時には必ず日本産業広告賞「参加申込書」を提出して下さい。  
●参加作品は出稿契約枠外の臨時出稿といたします。  
●参加作品に模倣などの事実が判明したときは、参加資格および入賞を取り消します。  
●カラー作品については、掲載日の調整をお願いすることがあります。  
※同一図案のフルカラー作品とモノクロ作品を新聞部門に応募する場合はどちらか一方の作品のみ応募を認めます。  
※同一企業が同一内容の作品を各部門にわたって応募され、審査の結果、複数部門で入席した場合は、原則として上位席次作品を入席とします。

# 雑誌部門参加規定

■**応募要領**—————ひろく産業界を対象とした広告で、日刊工業新聞社発行の月刊誌5誌に掲載をもって参加資格といたします。とくに業界、業種についての制限はありません。

なお応募点数についても制限はありません。

■**掲載雑誌**—————プレス技術・機械設計・機械技術・型技術・工場管理

■**審査対象**—————1頁以上(表紙・挿込みを含む)。

■**掲載月号**—————2023年10月号～2024年9月号

■**入賞発表**—————2024年11月上旬の日刊工業新聞紙上にて発表。

■**注意事項**—————●参加作品の掲載時には必ず日本産業広告賞「参加申込書」を提出して下さい。

●5誌の同月号に同じ作品を2誌以上掲載する場合は、発行日の早い雑誌のものを参加作品とします。

●参加作品は出稿契約枠外の臨時出稿といたします。

●メーカー、販売店などとのタイアップ広告の場合はいずれか一社名でお申し込み下さい。

●参加作品に模倣などの事実が判明したときは、参加資格および入賞を取り消します。

●カラー(4色)広告のポジ合成は2点以内。

●広告原稿は、データ入稿を原則とします。

※同一企業が同一内容の作品を各部門にわたって応募され、審査の結果、複数部門で入席した場合は、原則として上位席次作品を入席とします。

# 情報誌部門参加規定

■**応募要領**—————ひろく産業界を対象とした広告で、日刊工業新聞社発行の「新製品情報」誌への掲載をもって参加資格といたします。とくに業界、業種についての制限はありません。なお応募点数についても制限はありません。

■**審査対象**—————4/4頁以上(表紙・挿込みを含む)。

■**掲載月号**—————2023年10月号～2024年9月号

■**入賞発表**—————2024年11月上旬の日刊工業新聞紙上にて発表。

■**注意事項**—————●参加作品の掲載時には必ず日本産業広告賞「参加申込書」を提出して下さい。

●参加作品は出稿契約枠外の臨時出稿といたします。

●メーカー、販売店などとのタイアップ広告の場合はいずれか一社名でお申し込み下さい。

●参加作品に模倣などの事実が判明したときは、参加資格および入賞を取り消します。

●広告原稿は弊社の仕様書に沿って完全データで入稿して下さい。出力見本を必ず2枚添付して下さい。

※同一企業が同一内容の作品を各部門にわたって応募され、審査の結果、複数部門で入席した場合は、原則として上位席次作品を入席とします。

# 審査委員／表彰式

審査委員長  
早稲田大学 商学学術院教授  
嶋村 和恵

東京コピーライターズクラブ会長  
谷山 雅計

専修大学 経営学部教授  
石崎 徹

青山学院大学 経営学部教授  
芳賀 康浩

東京工芸大学 芸術学部教授  
福島 治

日本工作機械工業会 専務理事  
柚原 一夫

日本産業機械工業会 代表理事・専務理事  
秋庭 英人

日本電機工業会 専務理事  
高本 学

旭化成株式会社 広報部長  
坂元 善洋

NEC  
インテグレイテッドマーケティング統括部  
ディレクター  
戸田 淳

キヤノンマーケティングジャパン株式会社  
ブランドコミュニケーション本部  
メディア戦略部 部長  
北島 由美子

株式会社クボタ  
KESG推進部 担当部長  
廣瀬 文栄

コマツ  
ブランド戦略事業部 部長  
木村 幸

株式会社スギノマシン  
代表取締役副社長  
杉野 岳

パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社  
執行役員 ブランド・コミュニケーション担当  
園田 俊介

日立建機株式会社  
理事 ブランド・コミュニケーション本部長  
久保 達哉

富士フイルムビジネスイノベーション株式会社  
宣伝部 部長  
朝倉 孝幸

富士通株式会社  
グローバルマーケティング本部 コーポレートマーケティング統括部  
ソートリーダーシップ部 シニアマネージャー  
白石 陽太郎

株式会社富士通エフサス  
サポート部門 事業推進統括部  
シニアディレクター  
出口 拓夫

三木プリー株式会社  
会長  
三木 治一

三菱電機株式会社  
コーポレートコミュニケーション本部  
宣伝部 新規プロジェクト担当部長  
桑畑 一浩

株式会社安川電機  
上席執行役員 コーポレートブランディング本部長  
コーポレートブランディング本部 広報IR部長  
林田 歩

日刊工業新聞社  
小原 敏永

日刊工業新聞社  
神阪 拓

日刊工業新聞社  
宇田川 勝隆

(順不同 敬称略)

- 審査——上記審査委員による「日本産業広告賞審査委員会」で厳正に行われます。産業広告としての明確なコンセプト、訴求力、アイデア、デザイン、コピーを勘案して総合的に審査します。
- 表彰式——2024年11月中旬、東京都内のホテルにて新聞部門、雑誌部門、情報誌部門の関係者の出席により、第59回日本産業広告賞の表彰式を執り行います。
- その他——●本賞の詳細について、また応募にあたってのお問い合わせは本社、支社の係までご連絡ください。



# 前回の受賞作品

## 《新聞部門》



次なる挑線。

パナソニックのフィラメントは形を変えて輝き続ける。

白熱電球のフィラメントを従来の丸い形状からタンダム型（2本電球）時代の変わりとなり、その形状を造り直すことで、「タンダム極細線」という新たな可能性を生まれました。それは、驚くほどの細さ、しなやかさ、強さを兼ね備え、曲げや捻じりなどによる応力に全無抵抗。コップンツや鉛筆で、軽微な作業でも容易に折る強度、点熱度の相転を定規からメンシなど、様々な用途に使用できる可能性を秘めています。

細く、しなやか、なのに強い

径	長さ	重量
11 $\mu$ m	3,750 MPa	36.3 g

パナソニックの  
タンダム極細線

パナソニック株式会社 照明事業部



第1部 第1席 全30段 連版

日刊工業新聞広告大賞



## 《協賛経済・産業団体》

(予定・50音順)

日本アルミニウム協会  
日本機械工業連合会  
日本経済団体連合会  
日本工作機械工業会  
日本産業機械工業会  
日本自動車工業会  
日本商工会議所  
日本生産性本部  
日本鍛圧機械工業会  
日本鉄鋼連盟  
日本電気協会  
日本電機工業会  
日本BtoB広告協会  
日本フルードパワー工業会  
発明推進協会



本社 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 ☎03(5644)7310(直通)  
東日本支社 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 ☎03(5644)7266(直通)  
西日本支社 〒540-0031 大阪市中央区北浜東2-16 ☎06(6946)3351(直通)  
名古屋支社 〒461-0001 名古屋市東区泉2-21-28 ☎052(931)6155(直通)  
西部支社 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町1-1 ☎092(271)5716(直通)

<https://www.nikkan.co.jp>